

（夜間瀬橋と堤外水門）



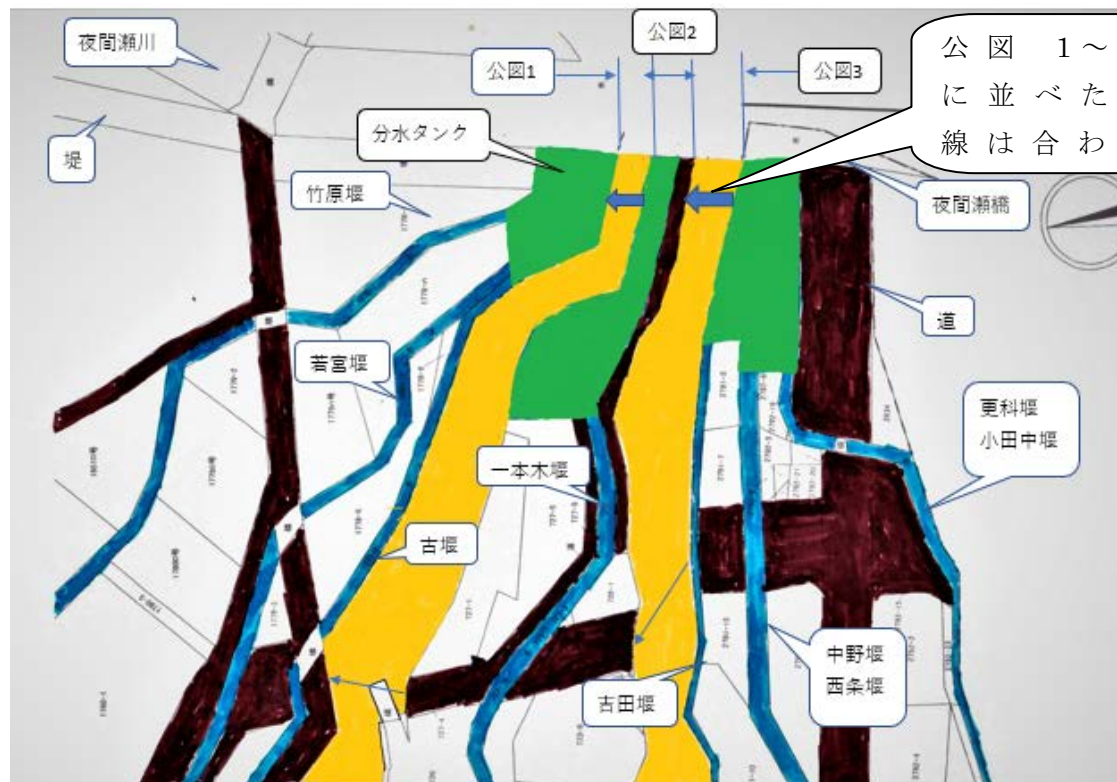
（分水タンク取入口）



郷にわたれたかタ用水村は中用水橋
用水近代化された。この川に架けられた夜間瀬橋も、時代と共に
取水入口付近の歴史として年表に整理した。
取水入口が、各村で重要な場所であったことは、八ヶ郷
の公園で、中野・一本木・竹原の三つに分
水を取り入れ、用水の取入を始めたが、竹原
の山ノ内町と山ノ内町との間に架かる夜間
瀬川から、山ノ内町に向かう橋の手前には、八ヶ郷
の歴史

八ヶ郷用水取水入口付近の歴史

黒崎一男



八ヶ郷の分水タンクには、更科
堰・小田中堰・中野堰・西条堰・
吉田堰・一本木堰・若宮堰・竹
原堰の、八ヶ郷の分水出口がある。
更科堰・小田中堰と、中野堰・
西条堰は、それぞれ分水出口を
出た後は、更科堰・中野堰とし
て流れて、途中で更科堰は小
田中堰と、中野堰は西条堰とに
分かれる。

分水タンクは、三枚の公
図に分かれて
いる。中野
村・一本木
村・竹原村が、
用水の入口
まで、自村の所
有とし、用水
の確保を図つ
たものと思わ
れる。公図は
一地図に準ず
る。図面に縮
小され、公図
は、分水タン
ク、現況は、
分水タンク下
り、分岐して
る。

1565		1555～1569		1406	1021	1015	878	西 暦	
永 禄 8	江 戸 時 代	弘 治 か ら 永 禄 年 間	16 世 紀 前 半	応 永 13	治 安 1	長 和 4	元 慶 2	和 暦	
月） が 特 に 被 害 が 大 き か つ た と 伝 え ら れ る 。 （8	夜 間 瀬 川 大 洪 水 と な り 、 竹 原 ・ 金 井 ・ 西 条 等 内 へ 通 じ て い た 。 田 地 籍 ） と 宇 木 を む す ぶ 宇 木 道 か ら 参 道 が 境	水 除 宮 の 神 明 社 （ 竹 原 新 田 組 ） 社 殿 は 竹 原 最 上 部 の 字 松 崎 に あ り 、 中 野 の ト ッ コ 橋 （ 栗 和 伝 え ら れ る 。 竹 原 堰 が 開 削 さ れ る 。 金 井 ・ 竹 原 三 分 一 堰 、 統 一 揚 水 口 を つ く る と	堰 ・ 吉 田 堰 ・ 若 宮 堰 が 開 削 さ れ る 。 中 野 堰 が 開 削 さ れ る 。 す こ し 遅 れ て 、 更 科	現 在 の 流 路 に な つ た と 伝 え ら れ る 。 （8月） 夜 間 瀬 川 大 洪 水 と な り 、 流 路 を 北 寄 り に 変 え	建 ・ 松 崎 （ 中 野 市 栗 和 田 ） に 武 水 穂 神 社 の 社 殿 再 伝 承 	横 湯 川 の 洪 水 に よ り 武 水 穂 神 社 の 社 殿 流 出 。 伝 承 	月 1 0 日 ） 伝 承 市 栗 和 田 ） に 武 水 穂 神 社 （ 水 分 神 ） 創 建 。 （9	横 湯 川 暴 流 。 こ れ を 防 止 す る た め 松 崎 （ 中 野	内 容
史。 中 野 八 ヶ 郷 水 利	竹 原 神 社 の 歴 史 。	史。 中 野 八 ヶ 郷 水 利	史。 中 野 八 ヶ 郷 水 利	史。 中 野 八 ヶ 郷 水 利	樋 口 春 雄 ） 。 号 （ 武 水 穂 神 社 ・ 須 坂 ・ 中 野 ・ 飯 山 社 寺 。 高 井 1 8 2	樋 口 春 雄 ） 。 号 （ 武 水 穂 神 社 ・ 須 坂 ・ 中 野 ・ 飯 山 社 寺 。 高 井 1 8 2	雄 ） 。 水 穂 神 社 ・ 樋 口 春 高 井 1 8 2 号 （ 武 神 社 ・ 池 田 一 男 ） 。 号 （ 中 野 市 武 水 穂 社 寺 。 高 井 1 6 1	須 坂 ・ 中 野 ・ 飯 山	引 用 文 献 （ 談 ）

1757	1757	1747	1747	1745	1744-1747	1743	1742	1722	1618	1614	1593	1578
宝暦 7	宝暦 7	延享 4	延享 4	延享 2	延享年 中	寛保 3	寛保 2	享保 7	元和 4	慶長 19	文禄 2	天正 6
竹原村等5か村、松崎取水口を掘抜用水溝に改修する計画を立てる。(6月)	夜間瀬川大洪水のため堤防破損し、竹原村等五カ村で御普請願いである。(5月)	竹原村が堤内地に水除雑木林と水除宮を設ける。	夜間瀬川の洪水により自普請の築堤流失する。(9月)	前年(延享2)と同じ流路で洪水となり、一本木村等の畑を流す。	江戸時代竹原村が竹原用水取水口に太神(伊勢)宮・水防林内に飯縄宮・金井用水の取入口の横に太神宮を祀る。	松崎より壁田村まで夜間瀬川の断続堤が完成する。(7月)	夜間瀬川大洪水(戊の満水)のため、中野扇状地の田畑が埋没流失する。(8月)	夜間瀬川大洪水のため、八カ村用水松崎取入口が大破し、八カ村にて改修する。(7月)	幕府代官の名を受け、黒崎治部助・白井市左衛門が中野村新田栗和田の開発にあたる。中野堰・更科堰が拡充整備される。	高社山で豪雨により山津波が発生した。2つの山津波は夜間瀬川方向に流下し、集落を押し潰した。夜間瀬川で洪水が発生し、延徳沖で特に被害が大きかった。	武水穂神社が松崎(中野市栗和田)から現在地(中野市中央1-3-19)へ移転。火災にあったり大水害で神体が流され、今の神社がある処にとまったといわれている。今も、八ヶ郷水利組合の祭神である「水神様」の像が神社に収められている。	夜間瀬川大洪水となり、中野・間長瀬・竹原の諸村が特に被害が大きかったと伝えられる。(5・6月)
中野八ヶ郷水利史。	中野八ヶ郷水利史。	竹原神社の歴史。	中野八ヶ郷水利史。	中野八ヶ郷水利史。	竹原区史。	中野八ヶ郷水利史。	中野八ヶ郷水利史。	中野八ヶ郷水利史。	中野八ヶ郷水利史。	夜間瀬川の地形形成史と土砂災害・砂防事業(長野県建設部砂防課)。	須坂・中野・飯山社寺。高井161号(中野市武水穂)。	中野八ヶ郷水利史。

1890	1890	1890	1986	1886	1876	1872		1856	1833	1828	1774	
明治 23	明治 23	明治 23	明治 19	明治 19	明治 9	明治 6		安 政 3	天 保 4	文 政 11	延 享 1	
大洪水により夜間瀬橋大破。これを機に、前橋街道は栗和田から八ヶ郷用水取入口の上流側を通り、新しい橋（板橋）で対岸にわたるようになった。ここはかつて文政3年	堤防の内部に砂利、その外側（法面）に石を積んだ、新式の堤防（石腹付砂利堤防）がつけられるようになった。	竹原の水除飯綱宮が八ヶ郷タンクの北側の神社地へ移された。（前は、すこし北にあった。）	長野県が夜間瀬川を管理。これに伴い夜間瀬川の堤防の構造が大きくなる。（これまで川を積み上げた石堤。）	八ヶ郷の呼び名は中野町他7ヶ村用水組合となる。松川村が中野町に合併した明治8年から呼び名と思われる。	夜間瀬橋は土橋（長さ9メートル、幅1.8メートル）となる。江戸時代からの道。	八ヶ郷の呼び名が中野町他八ヶ村用水組合となる。	悪水を堤外へ戻すようになっていた。 え提）があつて、村への浸水を防ぐとともに、間から溢れでるが、そこには松林が続いていた。松林の中には所どころに低い石積み（控え提）があつて、村への浸水を防ぐとともに、おさえ、洪水が一举に村へ流れ込むのを防いだ。夜間瀬川が増水すると、水は堤防の切れ間から溢れでるが、そこには松林が続いていた。松林の中には所どころに低い石積み（控え提）があつて、村への浸水を防ぐとともに、	明治時代初期は、夜間瀬川の堤防は、江戸時代のつづきだった。要所への石積みの堤防（石提）を築き、水制枠で補って川の流れをおさえ、洪水が一举に村へ流れ込むのを防いだ。夜間瀬川が増水すると、水は堤防の切れ間から溢れでるが、そこには松林が続いていた。松林の中には所どころに低い石積み（控え提）があつて、村への浸水を防ぐとともに、	カ村より御普請願いでる。（8月）	夜間瀬川大洪水となり松崎付近の堤防が決壊する。（8月）	大沼池の築堤が流失する。（6月）	夜間瀬川大洪水「戊の満水（1742年）」と同じ流路をとる。
竹原区史。	竹原区史。	竹原神社の歴史。	竹原区史。	中野八ヶ郷水利史。	竹原区史。	中野八ヶ郷水利史。	竹原区史。	中野八ヶ郷水利史。	中野八ヶ郷水利史。	中野八ヶ郷水利史。	中野八ヶ郷水利史。	

1933	1931		1913	1910	1910	1910	1904	1896	1894	1893	
昭和 8	昭和 6	大 正 中	大 正 2	明 治 43	明 治 43	明 治 43	明 治 30 後半	明 治 29	明 治 20 後半	明 治 26	
松崎用水口の改造工事が行われた。従来河川敷にあった用水・分離施設を河川敷外に移動。夜間瀬川から一つの水門で引き上げた水を、堤防外に設けられたコンクリートの貯水タンクに流入させ、八ヶ郷各堰へは規定の大きさの分水口を通して用水が送られる方式	八ヶ郷水利組合記念碑が松崎揚水口に建てられる。	夜間瀬川の堤防は夜間瀬橋から金井用水口したまでつづく。	宮（八ヶ郷タンクの北側、竹原堰と若宮堰の間）が個人に売却。	3・6メートル。竹原新田組の神明社（水除宮）・竹原村大神	竹原の神明社（水除宮）が竹原神社に合祀。	夜間瀬川流域に大洪水が発生し、それまでに建設された砂防施設が流出した。	堤防を補完する合掌（三角）が、随所につくられた。堤防が切れるところで、流れにたいし斜めに、並列に構築された。	夜間瀬川の用水権利につき八ヶ郷宣言書を採択する。	堤防の内側（内法）にも石が張られ、天端（上面）には畳石がしかれる。（堤防の強化と水防活動をしやすくした。）	八ヶ郷の呼び名は下高井郡夜間瀬川八ヶ郷普通水利組合となる。（略称され八ヶ郷という呼び名になる。）	（1820）、中野村が湯田中から引湯したとき、夜間瀬川に樋を架け、栗和田の作場道にそって木管を埋設したところである。
中野八ヶ郷水利史。	中野八ヶ郷水利史。	竹原区史。	竹原神社の歴史。	竹原区史。	竹原神社の歴史。	夜間瀬川地形形成史と土砂災害・建設部砂防課著）	竹原区史。	中野八ヶ郷水利史。	竹原区史。	中野八ヶ郷水利史。	

1972	1961	1952	1937	1937	1936	1935	1934	
昭和 47	昭和 36	昭和 27	昭和 12	昭和 12	昭和 11	昭和 10	昭和 9	
八ヶ郷の呼び名は中野市八ヶ郷土地改良区となる。(1月)	竹原神社地(現在の敬老園下)の神社地にコッパ飲料(株)が誘致された。そのため同地にあった水神太神宮は八ヶ郷タンクの北側の神社地へ移された。	夜間瀬川八ヶ郷普通水利組合が解散(3月)。夜間瀬川八ヶ郷水利組合が発足する(4月)。	竹原村の八ヶ郷分水タンク付近の井戸・ずい道工事完成。(3月)	八ヶ郷分水タンク内の流勢による水の分配の不合理的を少なくするため、八ヶ郷の事業として貯水タンクの横幅を狭めた。あわせて、貯水槽の砂利あげや工事の際断水しなくてよいように、貯水槽の廻りに廻水路を設けた。その後、タンク内の流勢による水の分配の不合理的を更に少なくするため、貯水槽の中にコンクリートの仕切りを設けた。	八ヶ郷分水タンク付近に井戸・ずい道工事着工。(2月)昭和8年、八ヶ郷にコンクリート製の松崎分水タンクが完成すると、各堰への配分比率が公平になり、流量が固定された。竹原へもつと水が欲しい時は、これまでのように夜間瀬川の竹原堰の分水口で堰の底を掘り下げて、水量を増やすことはできなかった。	夜間瀬川は夜間瀬橋から越橋間の連続堤防完成。	夜間瀬橋は鉄筋コンクリートの永久橋となる。	になった。夜間瀬川改良事務所の施設としてつくられ、使用権は八ヶ郷に所属された。
中野八ヶ郷水利史。	竹原神社の歴史。	中野八ヶ郷水利史。	竹原区史。	中野八ヶ郷水利史。	竹原区史。	竹原区史。	竹原区史。	

2000	1986	1981	1976
平成12	昭和61	昭和56	昭和51
夜間瀬川の偏流防止のため砂防工事により 複断面化し、合わせて高水敷に順次河川公 園・マレットゴルフ場が作られた。夜間瀬川 は昭和40年頃から上流の星川橋付近から 整備が始められ、平成30年の現在も十三崖 付近（チヨウゲンボウ繁殖地の国の天然記念 物に指定）の工事を継続している。	台風（9月）により夜間瀬川の堤防は 竹原で2箇所、笠原で1箇所、決壊の危機に さらされた。消防団の木流し工法等によって 決壊をくい止め。長野電鉄木島線の鉄橋の橋 脚を傾け、レールもくの字に曲がる。	堤防決壊。 金井・笠原地籍など3箇所で夜間瀬川 に、堤外地の八ヶ郷堰堤の水門の電動化を行 った。金井・笠原地籍など3箇所で夜間瀬川 の郷堰堤の幅・高さを増し強化を図った。更 水は免れた。この対策として、堤外地の八 瀬川堤防など4か所で浸食。（堤内地への浸 八ヶ郷堰堤の水が溢れ、すぐ下流左岸の夜間 台風の豪雨（8月）により夜間瀬川堤外地の 八ヶ郷堰堤の水が溢れ、すぐ下流左岸の夜間 瀬川堤防など4か所で浸食。（堤内地への浸 水は免れた。この対策として、堤外地の八 ヶ郷堰堤の幅・高さを増し強化を図った。更 に、堤外地の八ヶ郷堰堤の水門の電動化を行 った。金井・笠原地籍など3箇所で夜間瀬川 堤防決壊。	夜間瀬橋は新鉄筋コンクリートの永久橋と なる。（9月）合わせて、道路も拡張された ため八ヶ郷水利組合記念碑と水神祠が分水 タング南の道路向こう側の小高い所に移さ れた。
歩んだ道 2000 0年2月（長野県 北信建設事務所 著）。長野県北信 建設事務所談。	長野県北信建設事 務所談。	長野県北信建設事 務所談。	長野県北信建設事 務所（中野事務所 談）。

（中野市竹原一七七七）



（に 関 老 九 る い ろ 流
 築 夜 係 朽 百 ° 箇 う 防 夜
 堤 間 部 化 八 こ 所 と 止 間
 ） 瀬 門 が 十 こ が し の 瀬
 も 橋 の 懸 一 も 一 て た 川
 考 上 対 念 ） 作 つ い め は
 え 流 応 さ に ら あ る の 暴
 ら の に れ 一 れ る ° 砂 れ
 れ 強 委 る 部 て ° と 防 川
 る 度 ね と 改 八 そ こ 工 と
 と の た こ 修 十 れ る 事 言
 思 強 い ろ さ 数 は が に わ
 う い が も れ 年 、 、 よ れ
 ° む 一 あ た に 八 複 り た
 ら つ る が な ケ 断 ほ 歴
 さ の ° 、 る 郷 面 ぼ 史
 き 案 こ 取 ° 用 化 複 が
 岩 と の 水 昭 水 が 断 あ
 を し 対 口 和 取 計 面 る
 利 て 応 水 五 入 画 化 が
 用 左 に 門 十 口 さ 工 、
 し 図 つ 付 六 付 れ 事 現
 た の い 近 年 近 て を 在
 堰 よ て な へ で い お は
 提 う は ど 千 あ な わ 偏